

大淫婦バビロンの崩壊

2026年6月28日

ヨハネの黙示録 17章1～18節

序：ハルマゲドンへの段階

ハルマゲドンは戦場ではなく、軍勢の集合場所（イスラエル平原：ガリラヤ地方）

- (1)反キリストにつく世界規模の軍勢の結集（第6の鉢） 15・12~16
- ★(2)バビロンの崩壊 17章 18章
二つのバビロン（統一された宗教的勢力：偽教会／世界規模の政治的支配）
- (3)エルサレムの崩壊（by イスラエルから南下してくる軍勢）
イスラエルの残りの民はボズラ（ペトラ）に逃れている
- (4)反キリストの大軍勢はエルサレム ⇒ ボズラ（ペトラ）へ進軍
- (5)イスラエルの国家的（民族的）救い
悔い改めて、主の御名を呼び求める
主の地上再臨の3日前から
- (6)キリストが地上に再臨
- (7)反キリストの軍勢がエルサレムに戻って、キリストと激戦
ケデロンの谷で敗北 キリストの勝利
- (8)栄光の主がオリーブ山に立つ（第7の鉢：大患難時代終了）

(注) 再記述：同一の出来事を焦点を絞って、詳しく記す 16・19、17~18章

I. バビロンへのさばき（宗教勢力 17章、政治勢力 18章）

二重

- (1)大淫婦（1～6節）：世界を支配する偽宗教、にせ花嫁
 - ①名＝大バビロン、淫婦たちと地上のいまわしいものの母
 - ②地の王、支配者たち（政治的勢力）と結託・謀略
 - ③地に住む人々を誘惑し、神から遠ざけ、隷属させる
 - ④真の宗教の目的：奉仕・仕える 偽宗教の目的：支配・奴隷化
- (2)大水の 上に座している 15節
世界の諸国民 支配
- (3)緋色の獣に乗っている
神を冒瀆する名で満ちている
7つの頭と10本の角
- (4)紫と緋色の衣をまとい、宝飾品で身を飾り、淫行に誘う金の杯を持っている
- (5)聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っていた（多くの信者を迫害、殺害）

II. 緋色の獣 cf. 13・1～10

- (1)海からの獣（反キリスト）
悪の三位一体（悪魔、反キリスト、にせ預言者）の一位格
- (2)七つの頭と10本の角
患難期前半に統治した10人の王 ⇒ 獣とともに一時だけ王権を受ける
3人が背き、7人が追従
7人のうち5人が倒れた 残る2人のうち1人は今いる
もうひとりとは後から来る

もうひとりの後から来る王は7人の一人、8番目の王：昔いたが今いない
13・3

統一（患難期前半）：王たちは自分たちの力と権威を反キリストに委譲
分裂（患難期後半）：反キリストが自分を神として拝むよう命令

(3) 獣（反キリスト） 7~14 節

①昔はいたが今いない（死んだ）

底知れぬところに行くが、上って来る（よみがえった）

②獣の威力に驚嘆した人たち（子羊のいのちの書に名が記されていない）は、
服従し礼拝する

③患難期後半の間、活動が許され、聖徒たちに打ち勝ち、世界の民を支配する

④反キリストと彼に従う軍勢は、子羊に戦いを挑むが、子羊が勝利する

主の主、王の王

ともにいるのは、召され選ばれた忠実な者

これが最後の戦い（イエス・キリストの地上再臨）

III. 大淫婦（宗教的バビロン）の滅亡 15~18 節

神のご計画：その実現のために、王たちの心を動かし、一致して自分たちの王としての支配権を獣に委ねるようにされた（神の誘導）

反キリストと王たち（政治的バビロン）は大淫婦（宗教的バビロン）と決裂

今までの支配への報復：憎悪、搾取、残虐、徹底的に滅ぼす

自分の愚かさ、欺かれていたことに気づくが手遅れ（人間組織の誘導）

IV. 結び

(1)全世界の国家や指導者や個人の出処進退を神が定めておられる

(2)悪い組織や個人の邪悪な活動を神が敢えて許されることがある

①何か目的がある

②期間を定めている（いつまででもではない）

(3)滅ぼすのに①同士打ち、②敵対者との戦いがある

(4)政治的、経済的、文化的繁栄の陰には、快楽、金銭欲、名誉欲、不品行等への
絶えない誘惑が渦巻いている そういう中で成り立っている関係は崩壊する

(5)6 節の歴史的事実（ローマ主義者の血まみれの酔い）聖徒たちへの迫害

7 世紀 パウロ主義者（聖人礼拝、画像礼拝、僧職者の階層制を否定、

ローマ女皇帝テオドラによる10万人虐殺）

12 世紀 ワルド一派 / 14 世紀 ウィクリフの徒ラード派

16 世紀 宗教改革（ルター派、カルヴァン派） / 17 世紀 敬虔主義者
迫害の多くはローマ・カトリック教会から

信仰の戦いは、現在さらに複雑、迷走、混乱、逸脱等多い

私たちの信仰と生活の基準は聖書のみ、救いは神の恵みのみ+キリストへの信仰のみ